

看護技術経験状況



看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

1. 臨地実習において学生が行う基本的な看護技術の考え方

- 1) 技術の実施に当たっては患者の権利の保障と安全性の確保を最優先に考えて臨む。また、事前に患者・家族に十分かつ分かりやすい説明を行い、同意を得て行うこと。
- 2) 学生による技術の実施に当たっては、実施する援助内容についての説明能力を十分につけるとともに、事前に実践可能なレベルまで技術を修得しておくこと。
- 3) 患者の状態や学生の学習状況によっては、必ずしも予め定めた水準での実施が適当でない場合がある。そのような場合には、以下の事項を考慮して教員や看護師の判断のもとに水準を変更して行うこととする。
 - ① 学生が実施しても看護師等の実施に比較して患者へ大きな身体侵襲を来たすものでないかどうか。
 - ② 学生の技術の修得状況や援助の根拠となる知識修得の程度が十分であるか否か。
 - ③ 学生と患者・家族との人間関係に問題はないか。

2. 最終学年までに経験する項目の技術水準

I：単独で実施できる

II：指導のもとで実施できる

III：学内演習で実施できる

IV：知識としてわかる

3. 卒業時の看護技術到達水準（慈恵の実施基準）

実習中に積極的に技術の修得に努めていくことが望ましい。

A：実施する

受け持ち患者を通して修得する機会がない場合は、卒業時までに受け持ち患者以外でも1度は体験することを目標とする技術、または知識として述べられる

B：見学する

受け持ち患者を通して修得する機会がない場合は、卒業時までに受け持ち患者以外でも1度は見学することを目標とする技術

C：機会があれば実施または見学する

卒業時までに機会があれば実施または見学することを目標とする技術

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

項目	番号	技術内容	卒業時の到達度	実施基準	経験状況(実施:○ 見学:△)													
					基礎		成人			老年Ⅱ	小児	母性	在宅	精神	統合			
					I	II	A	B	C									
1	環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境を作ることができる	I	A														
		2 基本的なベッドメイキングができる	I	A														
		3 臥床患者のリネン交換ができる	II	A														
2	食事の援助技術	4 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	A														
		5 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	A														
		6 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	A														
		7 患者の栄養状態をアセスメントできる	II	A														
		8 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	A														
		9 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	A														
		10 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	B														
		11 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	B														
		12 電解質データの基準値からの逸脱が分かる	IV	A														
		13 患者の食生活上の改善点分かる	IV	A														
3	排泄援助技術	14 自然な排便を促すための援助ができる	I	A														
		15 自然な排尿を促すための援助ができる	I	A														
		16 患者に合わせた便器/尿器を選択し、排泄援助ができる	I	A														
		17 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	A														
		18 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	C														
		19 患者のおむつ交換ができる	II	A														
		20 失禁をしている患者のケアができる	II	A														
		21 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	A														
		22 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	C														
		23 モデル人形にグリセリン洗腸ができる	III	C														
24 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護が分かる	IV	A																
25 基本的な摘便の方法、実施上の留意点分かる	IV	A																
26 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点分かる	IV	A																
4	活動・休息援助技術	27 患者を車椅子で移送できる	I	A														
		28 患者の歩行・移動介助ができる	I	A														
		29 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	A														
		30 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	A														
		31 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	A														
		32 臥床患者の体位変換ができる	II	A														
		33 患者の機能に合わせてベットから車椅子への移乗ができる	II	A														
		34 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	A														
		35 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	A														
		36 体動制限による苦痛を緩和できる	II	A														
37 患者をベットからストレッチャーへ移乗できる	II	A																
38 患者のストレッチャー移送ができる	II	A																
39 関節可動域訓練ができる	II	A																
40 廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助が分かる	IV	A																
5	清潔・衣生活援助技術	41 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	A														
		42 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	A														
		43 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	A														
		44 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	A														
		45 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	A														
		46 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	A														
		47 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	A														

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

項目	番号	技術内容	卒業時の到達度	実施基準	経験状況(実施:○ 見学:△)													
					基礎		成人			老年Ⅱ	小児	母性	在宅	精神	統合			
					I	II	A	B	C									
1	環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境を作ることができる	I	A														
		2 基本的なベッドメイキングができる	I	A														
		3 臥床患者のリネン交換ができる	II	A														
2	食事の援助技術	4 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	A														
		5 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	A														
		6 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	A														
		7 患者の栄養状態をアセスメントできる	II	A														
		8 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	A														
		9 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	A														
		10 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	B														
		11 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	B														
		12 電解質データの基準値からの逸脱が分かる	IV	A														
		13 患者の食生活上の改善点分かる	IV	A														
		3	排泄援助技術	14 自然な排便を促すための援助ができる	I	A												
15 自然な排尿を促すための援助ができる	I			A														
16 患者に合わせた便器/尿器を選択し、排泄援助ができる	I			A														
17 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I			A														
18 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II			C														
19 患者のおむつ交換ができる	II			A														
20 失禁をしている患者のケアができる	II			A														
21 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II			A														
22 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III			C														
23 モデル人形にグリセリン洗腸ができる	III			C														
24 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護が分かる	IV			A														
25 基本的な摘便の方法、実施上の留意点分かる	IV	A																
26 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点分かる	IV	A																
4	活動・休息援助技術	27 患者を車椅子で移送できる	I	A														
		28 患者の歩行・移動介助ができる	I	A														
		29 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	A														
		30 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	A														
		31 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	A														
		32 臥床患者の体位変換ができる	II	A														
		33 患者の機能に合わせてベットから車椅子への移乗ができる	II	A														
		34 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	A														
		35 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	A														
		36 体動制限による苦痛を緩和できる	II	A														
		37 患者をベットからストレッチャーへ移乗できる	II	A														
		38 患者のストレッチャー移送ができる	II	A														
		39 関節可動域訓練ができる	II	A														
40 廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助が分かる	IV	A																
5	清潔・衣生活援助技術	41 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	A														
		42 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	A														
		43 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	A														
		44 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	A														
		45 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	A														
		46 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	A														
		47 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	A														

項目	番号	技術内容	卒業時の到達度	実施基準	経験状況(実施:○ 見学:△)																			
					基礎		成人			老年Ⅱ	小児	母性	在宅	精神	統合									
					I	II	A	B	C															
8	与薬の技術	97	抗生物質を投与されている患者の観察点に分かる	IV	A																			
		98	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法に分かる	IV	A																			
		99	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点に分かる	IV	A																			
		100	麻薬を投与されている患者の観察点に分かる	IV	A																			
		101	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法に分かる	IV	A																			
		102	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点に分かる	IV	A																			
9	救命救急処置技術	103	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	A																			
		104	患者の意識状態を観察できる	II	A																			
		105	モデル人形で気道確保が正しくできる	III	B																			
		106	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	C																			
		107	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる。	III	C																			
		108	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	C																			
		109	意識レベルの把握方法に分かる	IV	A																			
		110	止血法の原理がわかる	IV	A																			
10	症状・生体機能管理技術	111	バイタルサインが正確に測定できる	I	A																			
		112	正確に身体計測ができる	I	A																			
		113	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	A																			
		114	系統的な症状の観察ができる	II	A																			
		115	バイタルサイン・身体測定データ・症状等から患者の状態をアセスメントできる	II	A																			
		116	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	A																			
		117	簡易血糖測定ができる	II	A																			
		118	正確な検査を行うための患者の準備ができる	II	A																			
		119	検査の介助ができる	II	B																			
		120	検査後の安静保持の援助ができる	II	A																			
		121	検査前、中、後の観察ができる	II	A																			
		122	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	B																			
		123	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方法に分かる	IV	A																			
		124	身体侵襲を伴う検査の目的及び方法並びに検査が生体に及ぼす影響に分かる	IV	A																			
11	感染予防の技術	125	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	A																			
		126	必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	II	A																			
		127	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	A																			
		128	感染性廃棄物の取り扱いができる	II	A																			
		129	無菌操作が確実にできる	II	A																			
		130	針刺し事故防止の対策が実施できる	II	A																			
		131	針刺し事故後の感染防止の方法に分かる	IV	A																			
12	安全管理の技術	132	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	A																			
		133	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I	A																			
		134	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	A																			
		135	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	A																			
		136	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	A																			
		137	放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	A																			
		138	誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	III	A																			
		139	人体へのリスクの大きい薬剤の曝露の危険性および予防策に分かる	IV	A																			
13	安全確保の技術	140	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	A																			
		141	患者の安楽を促進するためのケアができる	II	A																			
		142	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II	A																			

看護師教育の技術項目別卒業時到達度と経験することが望ましい領域

H29変更

技術の種類	水準	慈恵基準	基礎 I	基礎 II	成人 A	成人 B	成人 C	老年 II	小児	精神	母性	在宅	統合	演習
環境調整技術	患者にとって快適な病床環境を作ることができる	I	A	○	○									
	基本的なベッドメイキングができる	I	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	臥床患者のリネン交換ができる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
食事の援助技術	患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	A					○	○					
	患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	A		○									
	経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	A					○						
	患者の栄養状態をアセスメントできる	II	A		○									
	患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	A			○								
	患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	II	A			○								
	患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	B					○						
排泄援助技術	モデル人形で経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	B											老年演習
	電解質データの基準値からの逸脱が分かる	IV	A		○									
	患者の食生活上の改善点分かる	IV	A			○								
	自然な排便を促すための援助ができる	I	A			○	○	○						
	自然な排尿を促すための援助ができる	I	A					○						
	患者に合わせた便器/尿器を選択し、排泄援助ができる	I	A					○						
	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	A				○	○						
	ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	C											
	患者のおむつ交換ができる	II	A					○	○		○			
	失禁をしている患者のケアができる	II	A					○						
活動・休息援助技術	膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	A			○	○	○						
	モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	C											基礎演習
	モデル人形にグリセリン洗腸ができる	III	C											基礎演習
	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護が分かる	IV	A					○						
	基本的な排便の方法、実施上の留意点分かる	IV	A									○		
	ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点分かる	IV	A									○		
	患者を車椅子で移送できる	I	A			○	○	○						
	患者の歩行・移動介助ができる	I	A			○	○	○						
	廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	A					○						
	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	A					○	○		○		○	
清潔・衣生活援助技術	患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	A					○		○			○	
	臥床患者の体位変換ができる	II	A				○	○						
	患者の機能に合わせてベットから車椅子への移乗ができる	II	A					○						
	廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	A					○						
	目的に応じた安静保持の援助ができる	II	A					○	○					
	体動制限による苦痛を緩和できる	II	A					○	○					
	患者をベットからストレッチャーへ移乗できる	II	A										○	
	患者のストレッチャー移送ができる	II	A										○	
	関節可動域訓練ができる	II	A					○						
	廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助が分かる	IV	A					○						
呼吸循環を整える技術	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	A					○						
	患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	A	○	○	○	○	○						
	清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	A			○	○	○	○		○			
	洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	A				○	○						
	口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	A				○	○						
	患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	A				○	○	○					
	持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	A					○	○					
	入浴の介助ができる	II	A					○				○		
	陰部の清潔保持の援助ができる	II	A					○	○					
	臥床患者の清拭ができる	II	A					○	○					
呼吸循環を整える技術	臥床患者の洗髪ができる	II	A					○	○					
	意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	A					○	○					
	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアが計画できる	II	A					○	○					
	持続静脈内点滴注射が実施中の患者の寝衣交換ができる	II	A					○	○					
	沐浴が実施できる	II	B								○			
	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	A				○							
	患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I	A					○						
	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	A				○	○	○		○			
	末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	I	A				○	○						
	酸素吸入療法が実施できる	II	A					○						
呼吸循環を整える技術	気道内加湿ができる	II	C											基礎演習
	モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	B											基礎演習
	モデル人形で気管内吸引ができる	III	C											基礎演習
	モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	C											基礎演習
	酸素ポンプの操作ができる	III	A											
	気管内吸引時の観察点分かる	IV	A					○						
	酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性が分かる	IV	A									○		基礎演習
	人工呼吸器装着中の患者の観察点分かる	IV	A									○		成人演習
	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点分かる	IV	C											成人演習
	循環機能のアセスメントの視点が分かる	IV	A			○	○							

技術の種類	水準	慈恵基準	基礎 I	基礎 II	成人 A	成人 B	成人 C	老年 II	小児	精神	母性	在宅	統合	演習	
褥創管理技術	患者の褥創発生の危険をアセスメントできる	I	A					○							
	褥創予防のためのケアが計画できる	II	A					○							
	褥創予防のためのケアが実施できる	II	A					○							
	患者の創傷の観察ができる	II	A			○		○			○				
	学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	C												災害演習
	創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	C			○									
与薬の技術	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴が分かる	IV	A			○									
	経口薬(パッカ錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	A		○			○	○	○					
	経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	A		○			○	○				○		
	直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	A										○		
	点滴静脈内注射を受けている患者の観察点が分かる	II	A									○			
	モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	C												基礎演習
	点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	A				○						○		
	モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	B												基礎演習
	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	C												基礎演習
	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	B												基礎演習
	輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	A				○						○		
	経口薬の種類と服用方法が分かる	IV	A			○		○	○	○					
	経皮・外用薬の与薬方法が分かる	IV	A		○			○	○				○		
	中心静脈内栄養を受けている患者の観察点分かる	IV	A					○				○	○		
	皮下注射後の観察点分かる	IV	A			○							○		
	筋肉内注射後の観察点分かる	IV	A												基礎演習
	静脈内注射の実施方法が分かる	IV	A					○				○	○		
	薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性が分かる	IV	A					○				○	○		
	静脈内注射実施中の異常な状態が分かる	IV	A					○				○	○		
	抗生物質を投与されている患者の観察点分かる	IV	A									○	○		
インシュリン製剤の種類に応じた投与方法が分かる	IV	A			○										
インシュリン製剤を投与されている患者の観察点分かる	IV	A			○										
麻薬を投与されている患者の観察点分かる	IV	A					○								
薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法が分かる	IV	A								○		○			
輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点分かる	IV	A					○								
救命救急処置技術	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	A										○		
	患者の意識状態を観察できる	II	A												
	モデル人形で気道確保が正しくできる	III	B				○								
	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	C												基礎演習
	モデル人形で閉鎖式マッサージが正しく実施できる	III	C												基礎演習
	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	C												基礎演習
症状・生体機能管理技術	意識レベルの把握方法が分かる	IV	A												
	止血法の原理がわかる	IV	A												災害演習
	バイタルサインが正確に測定できる	I	A	○	○										
	正確に身体計測ができる	I	A			○				○		○			
	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	系統的な症状の観察ができる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	バイタルサイン・身体測定データ・症状等から患者の状態をアセスメントできる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	A										○		
	簡易血糖測定ができる	II	A			○									
	正確な検査を行うための患者の準備ができる	II	A			○									
	検査の介助ができる	II	B			○									
	検査後の安静保持の援助ができる	II	A			○									
	検査前・中・後の観察ができる	II	A			○									
	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	B												基礎演習
血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方が分かる	IV	A										○			
身体侵襲を伴う検査の目的及び方法並びに検査が生体に及ぼす影響が分かる	IV	A			○										
感染予防の技術	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	A	○	○										
	必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	II	A	○	○										
	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	A				○								
	感染性廃棄物の取り扱いができる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	無菌操作が確実にできる	II	A												
	針刺し事故防止の対策が実施できる	II	A												
	針刺し事故後の感染防止の方法が分かる	IV	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
安全管理の技術	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	A				○						○		
安全確保の技術	誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	III	A												
	人体へのリスクの大きい薬剤の曝露の危険性および予防策が分かる	IV	C				○					○			
	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	A				○	○							
安全管理の技術	患者の安楽を促進するためのケアができる	II	A				○	○							
	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II	A				○	○							

看護技術の修得状況（卒業時）

1. 目的

卒業時の看護技術の修得状況を把握する。

2. 記載時期

3年次全ての実習終了時。

3. 調査にあたっての倫理的配慮

- 1) 看護技術の修得状況の調査結果が個人の評価に影響することはない。
- 2) データの管理方法は厳重に行う。
- 3) 調査結果は公表することもある。

4. 記入にあたっての注意事項

- 1) 臨地実習および学内演習において見学・実施した範囲で記入する。
- 2) 全ての技術項目毎に、3つの項目のどれか一つに必ず○をつける。
- 3) 実習要項から切り離し、ホッチキス留めし、無記名で提出する。
- 4) 「モデル人形」または「学生間で」という言葉は削除して考え、臨地実習の中で「見学」「実施」した範囲で、記入する。

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

	項目	技術内容	実施	見学	見学も実施もしていない
1	環境 技術 調整	患者にとって快適な病床環境を作ることができる			
		基本的なベッドメイキングができる			
		臥床患者のリネン交換ができる			
2	食事の 援助 技術	患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)			
		患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる			
		経管栄養法を受けている患者の観察ができる			
		患者の栄養状態をアセスメントできる			
		患者の疾患に応じた食事内容が指導できる			
		患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる			
		患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる			
		モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる			
		電解質データの基準値からの逸脱が分かる			
		患者の食生活上の改善点が分かる			
3	排泄 援助 技術	自然な排便を促すための援助ができる			
		自然な排尿を促すための援助ができる			
		患者に合わせた便器/尿器を選択し、排泄援助ができる			
		膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる			
		ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる			
		患者のおむつ交換ができる			
		失禁をしている患者のケアができる			
		膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる			
		モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる			
		モデル人形にグリセリン浣腸ができる			
		失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護が分かる			
		基本的な摘便の方法、実施上の留意点が分かる			
		ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が分かる			
4	活動・ 休息 援助 技術	患者を車椅子で移送できる			
		患者の歩行・移動介助ができる			
		廃用症候群のリスクをアセスメントできる			
		入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる			
		患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる			
		臥床患者の体位変換ができる			
		患者の機能に合わせてベットから車椅子への移乗ができる			
		廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる			
		目的に応じた安静保持の援助ができる			
		体動制限による苦痛を緩和できる			
		患者をベットからストレッチャーへ移乗できる			
		患者のストレッチャー移送ができる			
		関節可動域訓練ができる			
		廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助が分かる			
5	清潔・ 衣生 活 援助 技術	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる			
		患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる			
		清拭援助を通して、患者の観察ができる			
		洗髪援助を通して、患者の観察ができる			
		口腔ケアを通して、患者の観察ができる			
		患者が身だしなみを整えるための援助ができる			
		持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる			
		入浴の介助ができる			
		陰部の清潔保持の援助ができる			
臥床患者の清拭ができる					

項目	技術内容	実施	見学	見学も実施もしていない	
5	清潔・衣生活	臥床患者の洗髪ができる			
		意識障害のない患者の口腔ケアができる			
		患者の病態・機能に合わせた口腔ケアが計画できる			
		持続静脈内点滴注射が実施中の患者の寝衣交換ができる			
		沐浴が実施できる			
6	呼吸循環を整える技術	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる			
		患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる			
		患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる			
		末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる			
		酸素吸入療法が実施できる			
		気道内加湿ができる			
		モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる			
		モデル人形で気管内吸引ができる			
		モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる			
		酸素ポンプの操作ができる			
		気管内吸引時の観察点に分かる			
		酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性が分かる			
		人工呼吸器装着中の患者の観察点に分かる			
		低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点に分かる			
循環機能のアセスメントの視点が分かる					
7	褥創管理技術	患者の褥創発生の危険性をアセスメントできる			
		褥創予防のためのケアが計画できる			
		褥創予防のためのケアが実施できる			
		患者の創傷の観察ができる			
		学生間で基本的な包帯法が実施できる			
		創傷処置のための無菌操作ができる(ドレイン類の挿入部の処置も含む)			
創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴が分かる					
8	与薬の技術	経口薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる			
		経皮・外用薬の投与前後の観察ができる			
		直腸内与薬の投与前後の観察ができる			
		点滴静脈内注射を受けている患者の観察点に分かる			
		モデル人形に直腸内与薬が実施できる			
		点滴静脈内注射の輸液の管理ができる			
		モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる			
		モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる			
		モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる			
		輸液ポンプの基本的な操作ができる			
		経口薬の種類と服用方法が分かる			
		経皮・外用薬の与薬方法が分かる			
		中心静脈内栄養を受けている患者の観察点に分かる			
		皮内注射後の観察点に分かる			
		皮下注射後の観察点に分かる			
		筋肉内注射後の観察点に分かる			
		静脈内注射の実施方法が分かる			
		薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性が分かる			
		静脈内注射実施中の異常な状態が分かる			
		抗生物質を投与されている患者の観察点に分かる			
		インシュリン製剤の種類に応じた投与方法が分かる			
		インシュリン製剤を投与されている患者の観察点に分かる			
		麻薬を投与されている患者の観察点に分かる			
薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法が分かる					
輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点に分かる					

項目	技術内容	実施	見学	見学も実施もしていない
9	救命救急処置技術	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる		
	患者の意識状態を観察できる			
	モデル人形で気道確保が正しくできる			
	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる			
	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる。			
	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる			
	意識レベルの把握方法が分かる			
	止血法の原理がわかる			
10	症状・生体機能管理技術	バイタルサインが正確に測定できる		
	正確に身体計測ができる			
	患者の一般状態の変化に気づくことができる			
	系統的な症状の観察ができる			
	バイタルサイン・身体測定データ・症状等から患者の状態をアセスメントできる			
	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる			
	簡易血糖測定ができる			
	正確な検査を行うための患者の準備ができる			
	検査の介助ができる			
	検査後の安静保持の援助ができる			
	検査前、中、後の観察ができる			
	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる			
	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方が分かる			
身体侵襲を伴う検査の目的及び方法並びに検査が生体に及ぼす影響が分かる				
11	感染予防の技術	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる		
	必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる			
	使用した器具の感染防止の取り扱いができる			
	感染性廃棄物の取り扱いができる			
	無菌操作が確実にできる			
	針刺し事故防止の対策が実施できる			
	針刺し事故後の感染防止の方法が分かる			
12	安全管理の技術	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる		
	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる			
	患者を誤認しないための防止策を実施できる			
	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる			
	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる			
	放射線暴露の防止のための行動がとれる			
	誤薬防止の手順に沿った与薬ができる			
人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策が分かる				
13	安全確保の技術	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる		
	患者の安楽を促進するためのケアができる			
	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる			

【基準】 卒業時の到達度(厚生労働省)

- I : 単独で実施できる
- II : 指導の下で実施できる
- III : 学内演習で実施できる
- IV : 知識として分かる

慈恵(慈恵の卒業生としての到達度)

- A: 卒業時までには受け持ち患者以外でも1度は体験することを目標とする技術
または知識として述べられる
- B: 卒業時までには受け持ち患者以外でも1度は見学することを目標とする技術
- C: 機会があれば、卒業時までには一度は見学することを目標とする技術

慈惠第三看護専門学校

学生番号 _____ 氏名 _____